

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 29 年 1 月分）

【景況感】

景気は一部に弱さが見られるものの、緩やかに回復しつつある。

【製造業】生産、受注は持ち直しの動きが見えはじめている

○製造業は、一部の業種で生産の弱含みが見られるものの、輸送機械（主に自動車産業）や金属製品を中心に持ち直しの動きが見られ、生産は上げ下げを繰り返しながら前年同月水準まで回復しつつある。

【地場産業】一部に生産の持ち直しが見えはじめている

○地場産業は、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合、昨秋からの円安による原材料費高騰など厳しい状況が続く中、一部に生産の持ち直しが見えはじめている。

【個人消費】消費は持ち直しの動きが見えはじめている

○個人消費は、大型小売店等の売上前年比増減率が足下、プラスで推移しており、新車販売台数についても持ち直しの動きが見えはじめている。但し、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。

【観光】観光客数、宿泊客数はともに回復傾向にある

○観光は、前年に比べ日の並びが良く、休日数も多かったため、観光地・宿泊施設ともに客数は増加となった。

【雇用】雇用情勢は改善している

○雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は改善している。但し、多くの業種では人手不足感が拡大しており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。

【設備投資】投資意欲は減少する一方、投資実績は上向いている

○設備投資の実施は、昨年年初から上昇が続いている一方、設備投資意欲は、減少が続いている。設備投資の目的は、依然として工場・機械等の「補修・更新」がメインとなるが、人手不足を解消するための「合理化・省力化」も増加傾向にある。

【資金繰り】資金繰りは悪化傾向、借入難易感も低下している

○企業の資金繰りは、製造業・非製造業ともに昨年年初から悪化傾向にある。借入難易感も、製造業の低下が目立つものの、全体としてはプラス圏を堅持している。